

東日本大震災津波伝承館 いわて TSUNAMI メモリアル

令和 2 年度事業報告書



令和 3 年 5 月

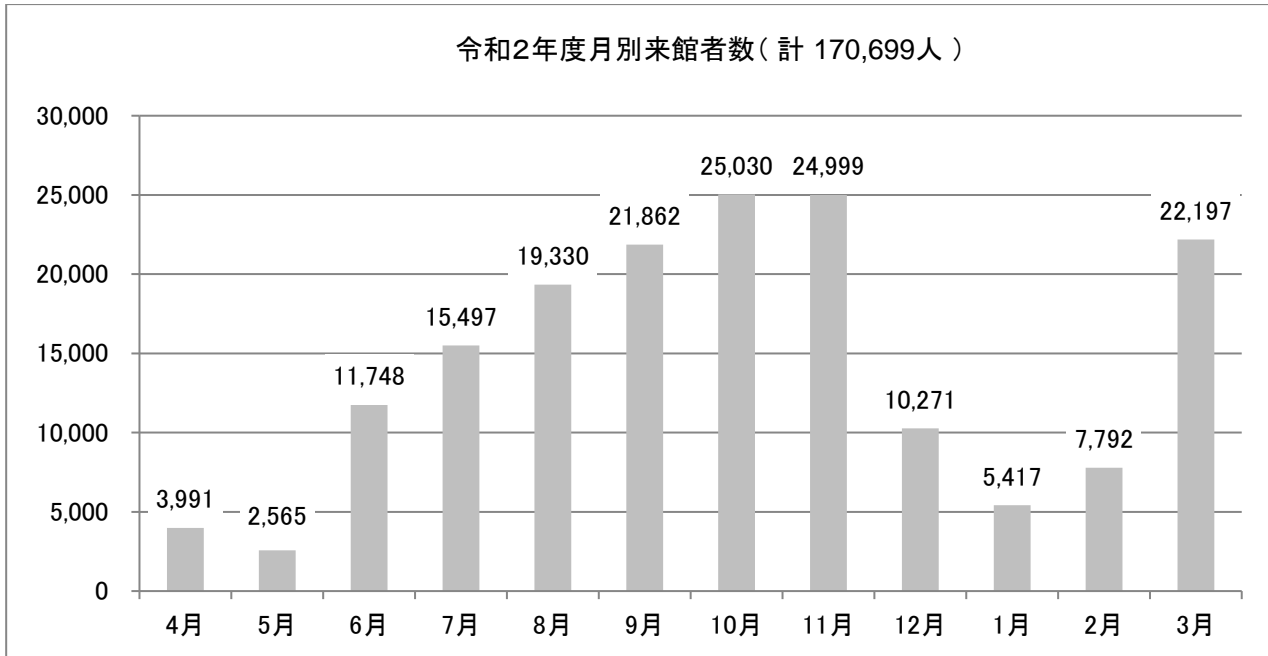
目 次

項 目	頁
来館者の状況	
1 来館者数の状況	2
2 区分別団体予約の状況	3
3 都道府県別団体予約の状況	3
事業報告	
I 展示事業	
1 常設展示及び解説員による分かりやすい解説の実施	5
2 企画展示の実施	7
II 教育・普及事業	
1 利用者層に応じた学習プログラムの作成	11
2 いわたの復興教育副読本「いきる かかわる そなえる」への伝承館の掲載	11
3 セミナールーム等を活用した学習講座・語り部の講話等	12
4 復興教育関係研修会等での利用促進要請	12
III 広報宣伝事業	
1 情報発信	13
2 教育旅行等の誘致	14
3 その他誘客促進	15
IV 連携事業	
1 海外、大学、関係機関との連携	16
2 県内及び被災4県の震災伝承施設の取組	19
V その他	
1 避難訓練の実施	21
2 受賞	22
<参考> 東日本大震災津波伝承館概要	23

来館者の状況

1 来館者数の状況

単位：人



令和2年度月別来館者数と平均来館者数

単位：人、日

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	累計
来館者数(A)	3,991	2,565	11,748	15,497	19,330	21,862	25,030	24,999	10,271	5,417	7,792	22,197	170,699	319,436
開館日数(B)	11	7	30	31	31	30	31	30	28	28	26	31	314	497
平均来館者数(A/B)	363	366	392	500	624	729	807	833	367	193	300	716	544	643

*1 新型コロナウイルス感染症対策のため、令和2年4月12日から5月24日まで休館。

*2 令和3年2月8日、9日は展示装置保守点検のため臨時休館。

*3 最多入館者数：2,067人(令和2年9月21日(月・祝))

令和2年度平日、土日祝日別来館者数、()は元年度

単位：人、日

	平日		土日・祝日		計	
来館者数(A)	96,914	(72,998)	73,785	(75,739)	170,699	(148,737)
開館日数(B)	216	(123)	98	(60)	314	(183)
平均来館者数(A/B)	449	(593)	753	(1,262)	544	(813)

* () は前年度実績

年度前半は、新型コロナウイルス感染症の影響により、団体利用のキャンセルが相次ぎ、来館者数が伸び悩んだが、7月以降は県内及び東北からの小中学校や三陸を周遊する観光ツアーを中心とする団体利用の増加に伴い、来館者数も増加に転じた。12月以降の冬期間は、学校の利用の減少に伴い、来館者数も大幅に減少したが、3月は「3.11」前後の意識の高まりにより来館者数が再び増加した。

なお、1日当たりの平均来館者数は、平日が449人、土日祝日が753人となっており、土日祝日は前年度同様、概ね平日の1.7倍となっている。

2 区分別団体予約の状況

令和2年度区分別団体予約件数

単位：件、人

		予約件数			人数		
		県内	県外	計	県内	県外	計
学校	小学校	108	12	120	3,689	405	4,094
	中学校	55	21	76	3,118	1,356	4,474
	高校	19	13	32	720	596	1,316
	大学	6	9	15	52	124	176
	計	188	55	243	7,579	2,481	10,060
学校以外	観光ツアー	35	174	209	792	3,561	4,353
	海外（観光含む。）	0	1	1	0	6	6
	地域の団体	40	8	48	825	117	942
	取材・報道	18	45	63	46	151	197
	国（省庁、議員）	6	21	27	51	142	193
	自治体	15	7	22	159	38	197
	議会	4	1	5	52	10	62
	議会（県外）	0	6	6	0	21	21
	県（部局、県議会）	19	0	19	157	0	157
	その他	39	47	86	518	483	1,001
	計	176	310	486	2,600	4,529	7,129
合計		364	365	729	10,179	7,010	17,189

学校では、県内は小学校（108件）が突出して多く、県外は大差ないが中学校（21件）が最も多い。

学校以外では、県内は大差ないが地域の団体（40件）による利用が最も多く、その他の団体（39件）、観光ツアー（35件）が続く。県外は観光ツアー（174件）による利用が突出して多い。

3 都道府県別団体予約の状況

令和2年度都道府県別団体予約件数

単位：件、人

	予約件数	人数		予約件数	人数		予約件数	人数
北海道	6	120	千葉県	3	14	愛知県	32	508
青森県	10	305	東京都	126	1,888	京都府	2	10
岩手県	367	10,189	神奈川県	7	136	大阪府	10	149
宮城県	73	1,325	新潟県	2	80	兵庫県	1	1
秋田県	12	245	富山県	1	15	愛媛県	1	180
山形県	15	540	石川県	1	1	佐賀県	1	13
福島県	20	579	山梨県	2	33	鹿児島県	1	3
茨城県	18	293	長野県	2	20			
栃木県	5	389	岐阜県	1	0			
埼玉県	8	134	静岡県	2	19	計	729	17,189

都道府県別にみると、岩手県（367件）が最も多く、東京都（126件）、宮城県（73件）が続く。

令和2年度都道府県・区分別団体予約件数

単位：件

	観光ツアー		小学校		中学校		高校	
	都道府県	予約件数	都道府県	予約件数	都道府県	予約件数	都道府県	予約件数
1	東京都	70	岩手県	108	岩手県	55	岩手県	19
2	岩手県	35	青森県 宮城県	4 4	宮城県 山形県	4 4	栃木県 愛知県	2 2
3	宮城県	24	秋田県 山形県	2 2	秋田県 福島県	3 3	その他	9
4	愛知県	21	—	—	栃木県 新潟県	2 2	—	—
5	その他	59	—	—	その他	3	—	—
	計	209	計	120	計	76	計	32

区分別にみると、観光ツアーでは東京都(70件)が最も多く、学校では小中高校とも岩手県が多い。

事業報告

I 展示事業

1 常設展示及び解説員による分かりやすい解説の実施

機器類の維持管理等を行うとともに、常設展示及び展示（マップ類）の一部更新、解説員による分かりやすい展示解説等に取り組んだ。

また、新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、来館者が安心して見学できるよう努めている。



新型コロナウイルス感染症対策の取組状況

来館者及び職員のマスク着用の徹底、検温（サーモグラフィーカメラの導入）、手指消毒（消毒用アルコールの設置）、受付の亚克力板設置、空調設備及び換気の徹底、職員による展示設備等の消毒、共用端末等の利用停止、証言ファイルの限定閲覧、床2m間隔のマーク表示、シアター一席等の間隔確保等

展示のテーマ

命を守り、海と大地と共に生きる
～二度と東日本大震災津波の悲しみをくり返さないために～

展示構成	展示内容	館内写真
エントランス (24H) 来館者を最初に迎えるインフォメーションゾーン。公園、陸前高田市、三陸沿岸地域、3.11 伝承ロード等の情報を提供する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設案内、避難案内 ・ 高田松原津波復興祈念公園ガイド ・ 陸前高田市市街地ガイド ・ 岩手県 三陸ガイド [地図] ・ 岩手県 三陸ガイド [検索装置] ・ 3.11伝承ロード [地図] ・ 全国・世界の類似館紹介 [検索装置] ・ メッセージボード [壁面モニター] ・ 施設メッセージ [壁面モニター] 	
ガイダンスシアター	命を守り、海と大地と共に生きる <ul style="list-style-type: none"> ・ 一般向け [40席 映像12分]→現在18席 ・ 子ども向け [40席 映像10分]→同上 	
ゾーン1：歴史をひもとく 津波災害を歴史的・科学的視点からひもとく、古来、育まれてきた知恵や技術、文化を見つめ直し、自然とともに暮らすということを改めて考える。	<ul style="list-style-type: none"> 1-1 地球の活動と地震・津波 [動画] 1-2 くり返す津波の歴史 1-3 日本の自然災害対策 	
ゾーン2：事実を知る 被災した実際の物、被災の現場をとらえた写真、被災者の声、記録などを通して、東日本大震災津波の事実を見つめる。	<ul style="list-style-type: none"> 2-1 東日本大震災津波の概要 2-2 被災物が語る津波の威力 2-3 失われた風景 2-4 被災者が語る津波の脅威 2-5 2011年3月11日 東日本大震災津波発生 [18席 映像6分]→現在12席 	

<p>ゾーン3：教訓を学ぶ 逃げる、助ける、支えるなど、東日本大震災津波の時の人々の行動をひもとくことで、命を守るための教訓を共有する。</p>	<p>3-1 命を救うために 災害対策室 [20席 映像8分] →現在7席 3-2 命を守る・支える 3-3 生きるための避難 3-4 未来をつくる</p>	
<p>ゾーン4：復興を共に進める 国内外からいただいている多くのご支援に対する感謝の気持ちとともに、東日本大震災津波を乗り越えて前へと進んでいく被災地の姿を伝える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援への感謝 ・ みんなで復興を考えるテーブル [地図、モニター] ・ 企画展示 	

(1) 展示施設の維持管理

動作確認等の日常点検及び年1回の保守点検を実施した。(令和3年2月8日(月)、9日(火))

(2) 解説員研修

解説業務を通じたノウハウを蓄積・共有と合わせて、展示解説研修及び接遇研修等を実施し、解説員の資質向上を図った。

<p>R 2年 4月21日(火) ～4月27日(月)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 沿岸市町村研修 (臨時休館中) 沿岸市町村及び遠野市について調査・発表を行い、基本情報に精通することで三陸地方へのゲートウェイ機能の向上を図った。 【調査内容】 自治体基本情報 (人口、観光、被害の概要)、当館の主な展示、震災伝承施設
<p>4月23日(木) ～5月8日(金)</p>	<p>解説研修 (臨時休館中) 解説練習や見学を通して、解説業務のスキルアップを図った。</p>
<p>8月5日(水)</p>	<p>新任解説員研修 いのちをつなぐ未来館視察</p>
<p>12月11日(金)</p>	<p>英語対応解説員スキルアップ研修 東北大学災害科学国際研究所マリ・エリザベス准教授他2名</p>
<p>R 3年 2月1日(月)</p>	<p>マナーアップとクレーム対応 コミュニケーションアドバイザー 田原美晴氏</p>
<p>2月8日(月)</p>	<p>解説員研修 (保守点検休館中)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 解説員としての心構えと常設展示の内容確認 東北大学 東北大学災害科学国際研究所 柴山 明寛准教授 ・ WEB研修会「スマトラ沖地震の事実と教訓を学ぶ」 シティ・マグフィラ氏 (インドネシアバンダアチェ在住 NGO、Kougetsu School Association (KSA) 日本語講師)

(3) 展示解説

予約団体に対して展示内容を解説したほか、来館者からの質疑等に対応(※)した。

※ 新型コロナウイルス感染症対策のため、現在は当日解説を見合わせている。

(4) 展示の一部更新

三陸沿岸ガイドマップ、3.11 伝承ロードマップ等の時点修正を実施した。

今後、高田松原津波復興祈念公園の開園状況と合わせ、公園マップの更新等を実施する。

2 企画展示の実施

常設展示の各ゾーンを補完し、自然災害への理解を深め、防災力の向上に資する内容の企画展示を4回実施したほか、開館1周年記念展示を行った。

また、他機関との共催展示とあわせ、計9回の企画展示を実施した。

第1回 解説 ゾーン1-2「津波堆積物剥ぎ取り標本」(主催①)

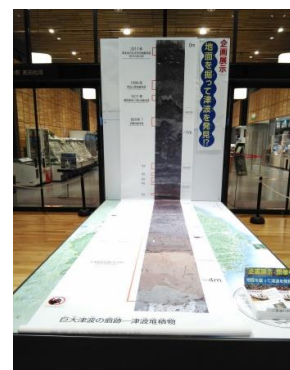
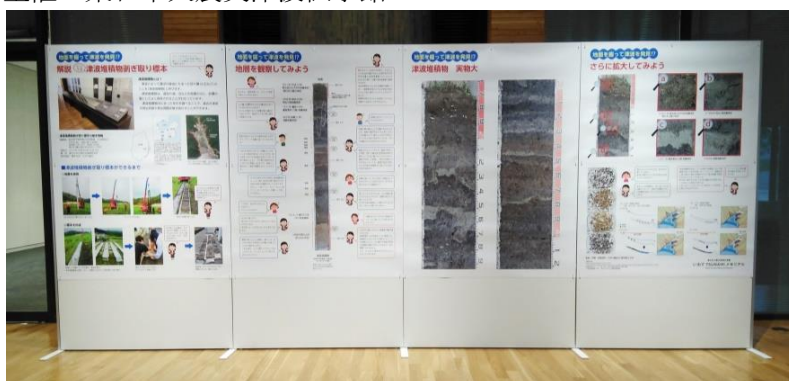
内容：ゾーン1-2に展示している「津波堆積物剥ぎ取り標本」について、詳しく解説。

目的：展示資料から、大津波がくり返し襲来している事実を学び、津波災害への防災意識を高める。

また、最新の津波堆積物研究の成果に触れ、様々な手法により津波研究が進められていることについて、理解を深める。

期間：令和2年6月11日(木)～7月8日(水)

主催：東日本大震災津波伝承館



第2回 「東日本大震災津波警察写真展～あの日を忘れない～」(共催①)

内容：発災当時の警察の活動について岩手県警の活動についての写真を展示。

目的：発災当時の警察の活動について岩手県警察本部との共催により写真展を実施し、災害から命を守る大切さを考える機会とする。

期間：令和2年7月23日(木・祝)～8月19日(水)

主催：岩手県警察本部、東日本大震災津波伝承館



第3回 解説「東日本大震災津波の時間経緯」(主催②)

内容：ゾーン1～3に関連する「東日本大震災津波の時間経緯」について、詳しく解説。

目的：東日本大震災津波発災時の警報（大津波）発表の時間経緯及び警報発表の仕組み、その後の改善点等を学び、防災力の向上に役立てる。

期間：令和2年9月8日（火）～10月11日（日）

主催：東日本大震災津波伝承館



第4回 開館1周年記念展示「伝えたい思い～メッセージボードに寄せられた言葉～」(主催③)

内容：令和元年9月22日開館から令和2年4月11日（臨時休館前）までに寄せられたメッセージ7000点余の中から約90点を展示。

目的：開館1周年にあたり、メッセージボードに寄せられたメッセージの一部を展示し、支援への感謝や震災伝承、復興への思いを共有し、自然災害に強い社会の実現に向けて歩みを進める一助とする。

期間：令和2年9月18日（金）～同年9月27日（日）

主催：東日本大震災津波伝承館



第5回 3.11 伝承ロードパネル展（共催②）

内容：三陸国道事務所との共催により、震災遺構、震災伝承の取組み、東日本大震災の対応についてのパネルを展示。

※「3.11 伝承ロード」とは、東日本大震災の事実や記憶、経験や教訓を伝えることで結ばれて新たにできる教訓・伝承の道（取組み）のこと。

目的：災害の事実や記憶、経験や教訓を忘れず後世に伝承する。

期間：令和2年10月31日（土）～同年11月12日（木）

主催：三陸国道事務所、東日本大震災津波伝承館



第6回 パネル展示「観でけろ、食ってけろ、行ってけろ！」（共催③）

内容：「観光パンフレットには載っていない、市民による高田の見どころ紹介」をテーマに、陸前高田市の魅力を紹介。

目的：高田松原津波復興祈念公園の来訪者に陸前高田市の魅力を紹介し、公園に来たお客様の満足度を高める、さらには公園の利用を契機とした市内の周遊利用促進やリピーター確保につなげる。

期間：令和2年11月16日（月）～同年12月13日（日）

主催：高田松原津波復興祈念公園
協働グループ 企画運営部会

共催：東日本大震災津波伝承館



第7回 解説「避難行動の事実」(主催④)

内容：ゾーン3に関連する「避難行動の事実」について、詳しく解説。

目的：東日本大震災津波時の避難行動の課題、災害時の避難情報のポイント等について学び、適切な避難行動に役立てる。

期間：令和2年12月15日(火)～令和3年1月11日(月・祝)

主催：東日本大震災津波伝承館



第8回 「東日本大震災報道展」(同時開催：いのちの写真展)(共催④)

概要：東日本大震災津波発災からの10年を新聞紙面等で振り返る「東日本大震災報道展」

発災直後の新聞紙面や震災後のシリーズ企画のパネル展示／震災関連映像／被災したカメラ(実物展示)など

期間：令和3年2月11日(木・祝)～同年3月7日(日)

主催：岩手日報社

共催：IBC岩手放送、東日本大震災津波伝承館



第9回 「復興を共に進める」(主催⑤)

内容：東日本大震災津波からの復興の姿を岩手県沿岸12市町村の航空写真で紹介。

目的：東日本大震災津波発災からの10年を振り返り、いただいてきた支援に感謝し、復興と震災伝承への思いを新たにす機会とする。

岩手県沿岸部航空写真(12市町村21地点、写真総数92点)

期間：令和3年3月13日(土)～同年4月11

日(日)

主催：東日本大震災津波伝承館



II 教育・普及事業

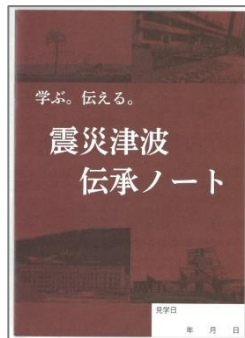
子どもから大人まで幅広い層のニーズに応じた学習プログラムを提供するとともに、セミナールームを活用したイベント等を通じて、幅広い層に震災伝承や防災に興味を持ってもらう。

1 利用者層に応じた学習プログラムの作成・実施

- (1) 小学生向け「震災津波学習ノート」の原案作成。3年度印刷・配付予定。
- (2) 中高生向け「震災津波伝承ノート」の配付、見学のサポートや学校での振り返り授業等で活用。
- (3) 一般向け「未来をつくる」ワークブックの配付、展示解説での活用
- (4) 県内の小・中・高等学校訪問による学校ニーズに応じた伝承館の利活用の推進
- (5) 来年度整備予定の野外活動センターと連携した児童・生徒向け学習プログラムの検討

中高生向け「震災津波伝承ノート」

作成部数：5,000部



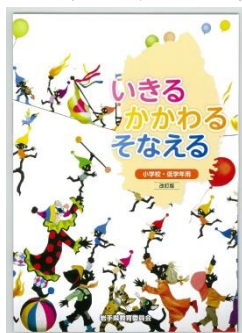
来館者一般向け「未来をつくる」ワークブック



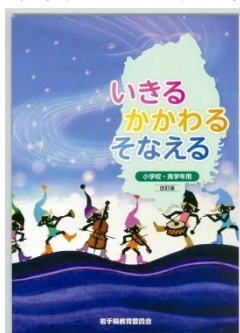
2 いわたの復興教育副読本「いきる かかわる そなえる」への伝承館の掲載

内容：県教育委員会が推進する「いわての復興教育プログラム」における教育的価値【いきる】【かかわる】【そなえる】を踏まえた児童生徒用の副読本（令和2年4月1日発行改定版）の原稿作成に協力し、伝承館が掲載された。

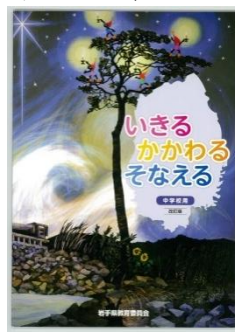
対象：県内市町村小中学校および県立学校の児童・生徒



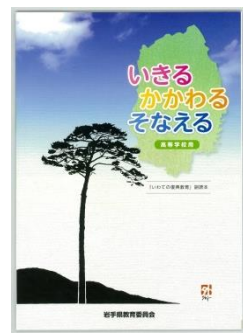
小学校・低学年用



小学校・高学年用



中学校用



高等学校用

3 セミナールーム等を活用した学習講座、語り部の講話等

新型コロナウイルス感染状況を注視しながら取り組む。

(1) 企画展示（関係機関、各種団体等）【再掲】

ア 3.11 伝承ロードパネル展

主催：三陸国道事務所、東日本大震災津波伝承館

開催期間 令和2年10月31日(土)～11月12日(木)

イ 「東日本大震災報道展」(同時開催：いのちの写真展)

主催：岩手日報社

共催：IBC 岩手放送、東日本大震災津波伝承館

開催期間 令和3年2月11日(木・祝)～同年3月7日(日)

ウ 「復興を共に進める」

主催 東日本大震災津波伝承館

開催期間 令和3年3月13日(土)～同年4月11日(日)

(2) ワークショップ・体験イベント等

避難所運営ゲームHUG（H=避難所 U=運営 G=ゲーム（ハグ））を通じた避難所運営学習の指導を行った。

ア 対 象： 大船渡市立赤崎中学校3年生 20人

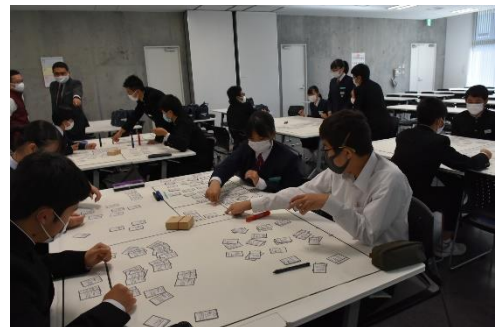
実施日： 令和2年10月27日(火)

場 所： 陸前高田市コミュニティーホール

イ 対 象： 一関市立川崎小学校5年生 18人

実施日： 令和2年11月5日(木・津波防災の日)

場 所： 陸前高田市コミュニティーホール



赤崎中学校HUGの様子

4 復興教育関係研修会等での利用促進要請

(1) 復興教育関係研修会での当館の積極的な利用の呼び掛け

復興教育関係研修会において、県内の学校向けに、復興教育の一環として当館の積極的な利用を呼びかけた。

ア 令和2年度復興教育研修会

【研修会参加一覧】

開催期日	主管事務所	場 所	参加校
7月3日(金)	盛岡	盛岡市総合福祉センター	小学校28校 中学校16校
7月28日(火)	沿岸南部	三陸公民館(大船渡市)	小学校19校 中学校5校
8月26日(水)	中部	岩手県生涯学習推進センター	小学校49校 中学校25校
11月30日(月)	県北	二戸地区合同庁舎	小学校21校 中学校7校
1月20日(水)	宮古	宮古市文化会館	小学校24校 中学校16校

* 県南教育事務所では実施せず

イ 中部教育事務所指導主事研修会

7月15日(水) 場所：花巻地区合同庁舎

(2) 教員現地研修会の開催

ア 第1回：令和2年8月7日（金）（於：セミナールーム）、参加者 23名

イ 第2回：令和2年12月26日（土）（於：セミナールーム、オンライン）、参加者 13名

修学旅行や校外学習で伝承館を利用いただくには、まず教員の施設理解を深めることが肝要であることから、県内の教員向けに現地研修会を開催した。



III 広報宣伝事業

広報宣伝活動は、新型コロナウイルスの動向を見ながら、展開した。

1 情報発信

(1) 報道機関への情報提供によるパブリシティ

大船渡記者クラブ及び県政記者クラブへの情報提供を通じて、県内向け報道の充実を図った。

(2) ホームページによる情報発信

団体予約受付の案内及び団体予約状況を掲載。

当館について、常設展示、利用案内を掲載。

企画・イベント、お知らせを掲載。

(3) 語り部等の紹介

令和2年8月より、「語り部等の紹介」と題して県内の震災ガイドや語り部をホームページにて紹介。

紹介した語り部等：宮古観光文化交流協会（学ぶ防災）、三陸鉄道（震災学習列車）、釜石観光ガイド会、大船渡津波伝承館、一般社団法人マルゴト陸前高田、陸前高田市観光物産協会（陸前高田観光ガイド部会）、NPO 法人 体験村・たのはたネットワーク、山田町震災語り部ガイド（以上8団体）

(4) ホームページの多言語対応

英語、中国語（繁体・簡体）、韓国語、インドネシア語の翻訳ページを作成し令和2年9月18日に公開した。

(5) SNSによる情報発信

「フォロワー数の増加」を当面の目標とし、継続的な投稿により「知ってもらい」「忘れられない」ことに努めた。

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う臨時休館を受け、休館期間中毎日、Twitter 上での展示解説に取り組んだ。

(6) ツイッター、インスタ、フェイスブックのフォロワー数（令和3年5月17日時点）

媒体	投稿数	フォロワー数
Twitter	2,613	2,024
Instagram	402	1,071
Facebook	194	838

(7) 月別新聞記事掲載数

令和2年度新聞記事掲載数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R3.1月	R3.2月	R3.3月	計
計	7	10	12	13	28	38	21	19	37	9	21	14	229

令和2年度新聞記事掲載数(内容別)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R3.1月	R3.2月	R3.3月	計
運営	7	9	2	4	20	22	4	10	20	7	14	9	128
展示	0	0	4	1	1	6	4	2	3	1	3	2	27
教育	0	0	4	6	7	7	4	7	4	0	0	0	39
行事	0	1	2	0	0	2	6	0	7	0	0	1	19
特集・コラム	0	0	0	2	0	1	3	0	3	1	4	2	16
計	7	10	12	13	28	38	21	19	37	9	21	14	229

2 教育旅行等の誘致

(1) 学校訪問を通じた働きかけ

県内の小中高校及び近隣県の学校に、伝承館を教育旅行や校外学習先として検討してもらえよう、学校訪問により働きかけた。(R 2年度実績) 単位：校

区 分	沿岸地区	県南中部地区	計
小 学 校	43	45	88
中 学 校	25	27	52
高等学校	12	22	34
計	80	94	174

【主な意見】

- ・ 津波について科学的メカニズムを知らせ、一人一人が判断できる素養を磨ける施設。他の施設では情に訴える展示が多く、どうすればよいのかの視点が不足している。伝承館では、分析し傾向を学べるような展示がされている。そうすれば被害を最小にできるというメッセージが感じられる。(県南地区の高校)
- ・ 伝承館に行くためにはバス費用を捻出しなければならない。遠足と抱き合わせの形であれば見学も考えられる。その場合には昼食を摂る場所があればよい。(沿岸南部地区の小学校)
- ・ 内陸の子は津波の恐ろしさを全く知らない。体験的な要素があれば。津波の速さ、威力を体感できるものがあればいい。(中部地区の小学校)

(2) 教員現地研修会の開催【再掲】(詳細はⅡ 4 (2)のとおり)

3 その他誘客促進

(1) リーフレット作成（日・英・中・韓）

リーフレット日本語版の全面改定を行い、併せて、英語、中国語（繁体・簡体）、韓国語版を作成した。



(2) 伝承館紹介動画制作

伝承館を紹介する動画を制作して、HPに公開した。

今後、岩手県が開催・出展する各種イベント等で活用する。



(3) 都営地下鉄広告

令和元年度同様、東京都交通局の復興支援を活用し、都営地下鉄全線全車両への中吊り広告を掲出した。

※ 実施時期：令和2年11月11日(水)～11月24日(水)



(4) オンライン展示解説の試験実施

新型コロナウイルス感染症状況下における新たな震災伝承スタイルを模索するため、各種団体と連携してオンラインでの展示解説に試験的に実施した。

ア 岩手日報社と連携したオンライン展示解説の実施（令和2年7月20日(月)）

相手方 愛媛県立伊予高等学校

イ マルゴト陸前高田と連携したオンライン展示解説の実施（令和2年8月26日(水)）

相手方 清泉女子大学地球市民学科

※ いずれも、新型コロナウイルス感染症禍における震災伝承の新たな取組として TV、新聞等で多く取り上げられ、広報宣伝の面でも極めて高い効果を得ることができた。

IV 連携事業

展示事業、教育・普及事業及び広報宣伝事業の内容を充実・発展させるため、大学、類似施設等と東日本大震災津波の伝承、発信、調査研究等に係る一層の連携推進を図った。

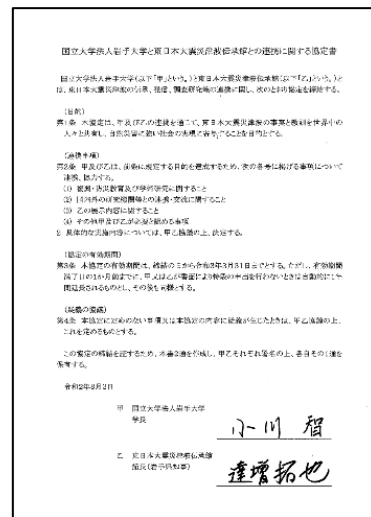
1 海外、大学、関係機関との連携

(1) 岩手大学、東北大学との連携

伝承館が、震災・津波災害から命を守るための効果的な学びの場を提供し続けられるよう、震災津波や防災・減災に関する専門的知見を有する岩手大学、東北大学（災害科学国際研究所）と連携に関する協定を締結した。

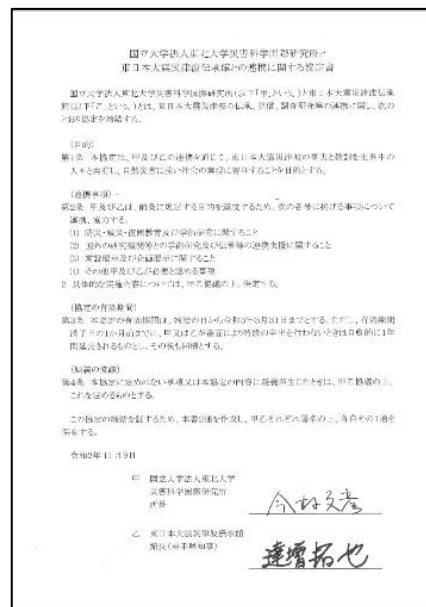
ア 岩手大学との連携に関する協定

- ・ 締結日 令和2年8月3日(月)
- ・ 連携事項
 - ① 復興・防災教育及び学術研究に関すること
 - ② 国内外の研究機関等との連携・交流に関すること
 - ③ 伝承館の展示内容に関すること
 - ④ その他伝承館及び岩手大学が必要と認める事項



イ 東北大学災害科学国際研究所との連携に関する協定

- ・ 締結日 令和2年11月9日(月)
- ・ 連携事項
 - ① 防災・減災・復興教育及び学術研究に関すること
 - ② 国外の研究機関等との学術研究及び伝承等の連携支援に関すること
 - ③ 常設展示及び企画展示に関すること
 - ④ その他伝承館及び東北大学災害科学国際研究所が必要と認める事項



(2) 海外津波博物館との連携

東日本大震災津波から10年の節目に、世界に向けて情報発信を行う「三陸 TSUNAMI ウェビナー」を開催し、その様子を収録、編集した動画を公開した。

ア 期 日：令和2年12月12日（収録）、令和3年2月11日（公開）

イ テーマ：津波災害の学び

ウ 出演者：東日本大震災津波伝承館、ハワイ太平洋津波博物館、アチェ津波博物館、
ハワイ大学ハワイ校、ジャクアラ大学、東北大学災害科学国際研究所

エ 内 容：知事開会メッセージ、出演者紹介、各地域の子どもたちからの質疑応答、ディスカッション

(3) 震災伝承 Web 研修会「スマトラ沖地震の事実と教訓に学ぶ」の開催

2004年12月に発生したスマトラ沖地震から16年が経過した、最大の被災地バンダアチェとライブで繋ぎ、Web 研修会を開催した。

ア 日 時：令和3年2月8日（月）14:00～15:00

イ 場 所：オンライン+伝承館セミナールーム

ウ 講演テーマ：「スマトラ沖地震の事実と教訓に学ぶ」

講師 シティ・マグフィラさん（インドネシアバンダアチェ在住
NGO、Kougetsu School Association (KSA) の日本語講師）

エ 参加者：東日本大震災津波伝承館職員・解説員(13名)、オンライン参加（震災伝承施設、大学研究者等）約30名



(4) 岩手県立大学の地域協働研究による「伝承館を拠点としたゲートウェイ機能に関する調査」

宿泊数、訪れてみたい観光施設と震災伝承施設を属性（年齢、性別、同行者、来場経験、居住地、訪問地、交通手段）や動機別（訪問目的）にクロス集計を行った。

【調査時期・方法】 令和2年9月～10月・対面アンケート調査

【調査対象】 来館者 601名

①来館者の居住地別

居住地	人数	割合
岩手県内	203	33.8%
岩手県外	398	66.2%
北海道東北	154	25.6%
北関東甲信	41	6.8%
南関東	130	21.6%
北陸	12	2.0%
東海	16	2.7%
近畿	31	5.2%
中国	2	0.3%
四国	0	0%
九州	11	1.8%
不明	1	0.2%

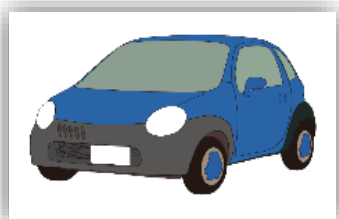
②岩手県内来館者の居住地別（地域）

居住地	人数	割合
県北	5	2.5%
県央	85	41.9%
県南	78	38.4%
沿岸	31	15.3%
不明	4	2.0%

③性別

地区	人数	割合
男性	318	52.9%
女性	250	41.6%
不明	33	5.5%

地区	人数	割合
10歳未満	1	0.2%
10歳代	23	3.8%
20歳代	58	9.7%
30歳代	64	10.6%
40歳代	115	19.1%
50歳代	169	28.1%
60歳代	100	16.6%
70歳代	57	9.5%
80歳以上	9	1.5%
不明	5	0.8%



- ① 年齢 50歳代 28.1%
- ② 同行者 家族 62.1% 2人 49.9%
- ③ 居住地 県外 66.2%
- ④ 交通手段 自家用車 75.7%
- ⑤ 伝承館起点にした観光地ニーズ
気仙沼市、大船渡市、道の駅高田松原、浄土ヶ浜、平泉・中尊寺、龍泉洞
- ⑥ 伝承館起点とした震災伝承施設ニーズ
奇跡の一本松、いのちをつなぐ未来館、たろう観光ホテル、大船渡市立博物館、
- ⑦ 旅行日数 県外の方 日帰り 25.9%、2泊 25.1%
- ⑧ 県内宿泊地 県外の方 沿岸 61.5%、内陸 38.5%
- ⑨ 情報の入手方法
(ア) 県内の方 報道、口コミ、
(イ) 県外の方 HP・SNS、ガイドブック、口コミ
- ⑩ 見学時間
実際 30～45分 必要な時間 60～75分
- ⑪ 満足度
「とてもよかった」「よかった」が9割以上

【調査結果の活用】

- ・令和3年2月15日、広域での震災学習や周遊観光の一層の推進を図るため沿岸市町村商工観光担当課、同観光協会、沿岸・県北広域振興局を対象にした伝承館ゲートウェイ意見交換会を開催した。
- ・岩手県立大学総合政策学部において更なる分析を進め、今後の取組への提言等を含む地域協働研究として報告。

2 県内及び被災4県の震災伝承施設の取組

(1) 震災伝承ネットワーク協議会

東北地方整備局、被災4県（青森県を含む）及び仙台市で構成する震災伝承ネットワーク協議会において公募・登録を実施している「震災伝承施設」の登録数は次のとおり。

震災伝承施設登録数 (令和3年4月1日現在)

所在市町村	施設数 (件数)	分類の内訳			所在市町村	施設数 (件数)	分類の内訳		
		第1分類	第2分類	第3分類			第1分類	第2分類	第3分類
洋野町	1	1			山田町	5	3	1	1
久慈市	10	8	1	1	大槌町	10	9		1
野田村	5		4	1	釜石市	10	5	3	2
普代村	5	2	3		大船渡市	19	12	6	1
田野畑村	4	1		3	陸前高田市	24	21	1	2
岩泉町	4	2	2		遠野市	1			1
宮古市	10	4	1	5	合計	108	68	22	18

※ 山田町は駐車場整備により第1分類から第2分類に変更登録。

※ 「震災伝承施設」の登録に当たっては、各施設を①震災伝承、②訪問しやすさ、③理解しやすさの点から、次のとおり3分類している。

第1分類：①だけを満たす施設、第2分類：①及び②を満たす施設、第3分類：①②③全てを満たす施設

ア 令和3年2月2日の震災伝承ネットワーク協議会で追加登録承認された主な施設

分類	所在市町村名	施設の名称	登録年月日
第3分類	野田村	野田村復興展示室	R3.2.2
	山田町	山田町まちなか交流センター	R3.3.11
第2分類	野田村	米田水門	R3.3.18
	野田村	旧下安家地区応急仮設住宅	R3.4.1

(2) 震災伝承ネットワーク協議会とタイアップした情報発信

震災伝承ネットワーク協議会と東日本大震災津波伝承館が共同して情報発信を行った。

河北新報に掲載した広告記事 (R3. 1. 30 (土))



情報誌に掲載した広告記事



掲載情報誌

- ・ハイウェイウォーカー (東日本版、北海道版)
2021. 3月号
※高速道路SA・PAの情報誌
- ・ランヴェール 2021. 3月号、4月号、5月号、6月号 (予定。)
※JR東日本の車内誌
- ・ひととき 2021. 3月号
※JR東海の車内誌
- ・SKYWORD 2021. 3月号
※JALの機内誌

(3) 「震災伝承施設」追加登録に伴う展示施設の時点更新

震災伝承ネットワーク協議会において追加登録された「震災伝承施設」を、エントランスの展示施設「3.11 伝承ロード [地図]」に追加表示するなど、時点更新した。

(4) 3.11 伝承ロード推進機構の取組と連動した情報発信

3.11 伝承ロード推進機構の事業と連動し、広域的な震災伝承ネットワークの構築に向けた取組を推進する。(3.11 伝承ロードパンフレットの配架、ツアーの受入れ)

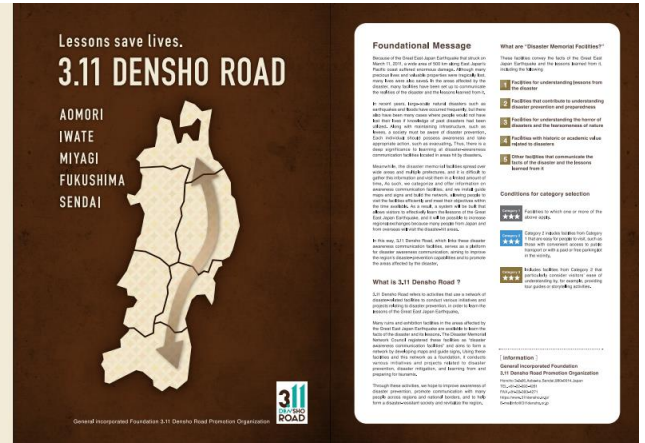
来館日	研修者数	来館日	研修者数	備考
R2. 7. 13	20 名	R2. 11. 19	20 名	
R2. 9. 10	10 名	R2. 11. 20	11 名	
R2. 10. 17	15 名	R2. 12. 3	15 名	キャンセル
R2. 11. 5	32 名	R2. 12. 12	9 名	キャンセル

3.11 伝承ロード推進機構において令和2年度に作成し、伝承館で配架したパンフレット類

日本語版



英語版



震災伝承施設イラストマップ（岩手県編）



V その他

1 避難訓練の実施

(1) 令和2年9月1日（火・防災の日）午前9時30分実施

- 参加機関 道の駅高田松原、東日本大震災津波伝承館、（一財）公園財団高田松原津波復興祈念公園分室及び陸前高田市

・ 内容

第1部 来場者を待機場所である水盤前まで避難誘導／参加者：施設職員及び一般来場者 40名

第2部 8月24日から供用開始された気仙小学校に上がる避難経路を徒歩で確認。
参加者：施設職員 13名



(2) 令和2年11月5日(木・津波防災の日、世界津波の日) 13時50分実施

- ・ 参加機関 道の駅高田松原、東日本大震災津波伝承館、(一財)公園財団高田松原津波復興祈念公園分室、一関市立川崎小学校及び一般来場者
- ・ 内容
来場者を待機場所である水盤前まで避難誘導
／参加者：施設職員及び一般来場者 60名



2 受賞

(1) 第6回日本展示学会賞

- ア 主催 日本展示学会
- イ 対象期間 2016年1月1日～2019年12月31日
- ウ 日本展示学会賞 東日本大震災津波伝承館ほか15点
- エ 当館受賞内容(日本展示学会ホームページより)

東日本大震災に関連した国県レベルでは初めて整備された施設である。

展示テーマは「命を守り、海と大地と共に生きる」で、「歴史をひも解く」「事実を知る」「教訓を学ぶ」「復興を共にすすめる」の4ゾーンで構成されている。

津波のメカニズムの映像装置、東北地方整備局の災害対策室の移設・再現、津波の巨大なパワーを示す変形した橋梁や大破した消防車両の実物展示など工夫がみられる。バランスのとれたコンテンツと、抑えられた展示デザインで過度に感傷的にならず震災の実相を正確に伝えており、高く評価できる。この展示を含む「津波伝承館」は高田松原津波復興祈念公園内の入り口の施設である。公園内には、「旧道の駅タピック45」「旧気仙中学校校舎」などの震災遺構や復元した「奇跡の一本松」が、また海に臨む中核的な位置に国の追悼・祈念施設が置かれている。

プレック研究所・内藤廣建築設計事務所JVが計画した公園全体は優れた屋外展示であり、併せて高く評価したい。



(2) 日本空間デザイン賞 2020BEST100 (ショートリスト)

主催：一般社団法人日本空間デザイン協会、一般社団法人日本商環境デザイン協会

(3) ディスプレイ産業特別賞(日本経済新聞社賞)

主催：一般社団法人日本ディスプレイ業団体連合会

<参考> 東日本大震災津波伝承館概要

1 いわて県民計画（2019～2028）の位置付け

「復興推進プラン」の4本の柱「未来のための伝承・発信」のもと、事実・教訓の伝承へ取り組んでいく。

【第1期アクションプラン—復興推進プラン（2019年度～2022年度）】

IV 未来のための伝承・発信（抜すい）

1 事実・教訓の伝承

未曾有の大規模災害の事実や被災された方のこれまでの経験を踏まえた教訓を確実に伝承し、その教訓を防災文化の中で培っていきます。

取組項目 22 教訓を伝承する仕組みづくりを推進します

① 東日本大震災津波伝承館の整備・運営

災害の歴史から学び、記憶や経験を語り継ぎ、将来に生かすため、高田松原津波復興祈念公園内に東日本大震災津波伝承館を整備し、展示及び教育・普及の事業を実施します。

また、大学、類似施設、被災地をはじめとする県内各地域等と連携し、防災文化の効果的な醸成と継承を図ります。

2 東日本大震災津波伝承館の設置目的（東日本大震災津波伝承館条例）

- (1) 東日本大震災津波の教訓の伝承（第1条）
- (2) 東日本大震災津波の発災から復興に至るまでの状況の国内外への発信（第1条）
- (3) 復興支援に対する感謝の発信（条例前文）

3 ミッション・ステートメント（施設の基本理念 平成30年1月9日決定）

日本列島は、地球上でも特に自然災害の危険性が高い宿命の地であり、この地に生きる私たちは、長年にわたり自然災害への対応力を高めてきました。

しかし、2011年3月11日に発生した東日本大震災津波により、私たちは多くの尊い命を失いました。

この悲しみを繰り返さないためには、知恵と技術で備え、自ら行動することにより、様々な自然災害から命を守り、そして、自然災害を乗り越えていくことが重要です。

東日本大震災津波伝承館は、先人の英知に学び、東日本大震災津波の事実と教訓を世界中の人々と共有し、自然災害に強い社会を一緒に実現することを目指します。

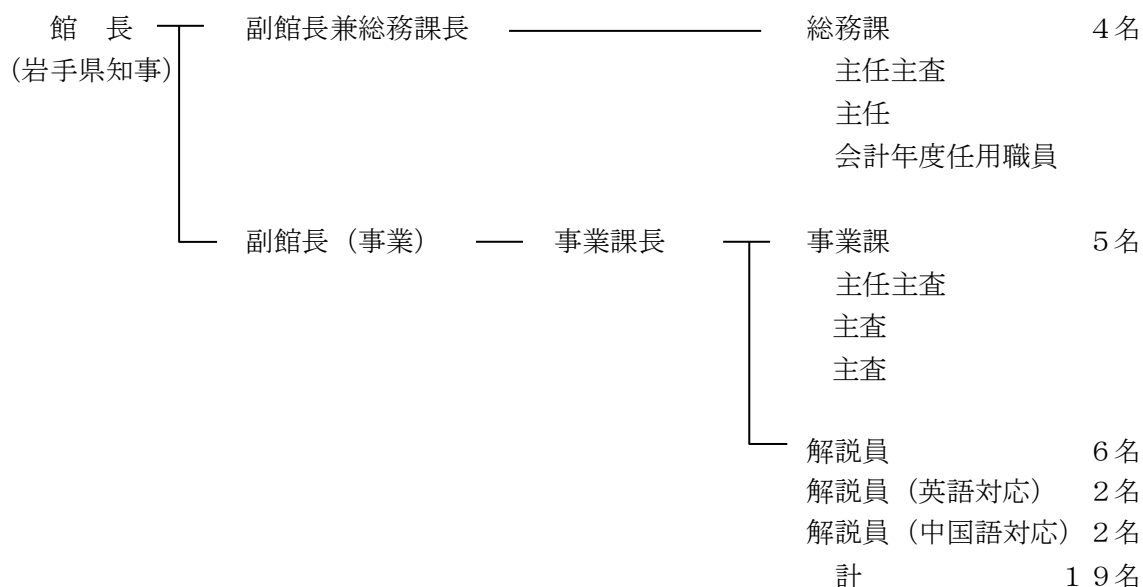
そして、東日本大震災津波を乗り越えて進む姿を、支援への感謝とともに発信していきます。

※ ミッションステートメント：来館者に向けて、施設の基本理念を表明することにより、展示及び事業運営の指針を明確に示し、訴求力を高めようとするもの。

4 施設の概要

(1) 名称	東日本大震災津波伝承館
(2) 愛称	いわて TSUNAMI メモリアル
(3) 設置場所	陸前高田市気仙町字土手影 180 番地（高田松原津波復興祈念公園内）
(4) 規模・構造	鉄筋コンクリート造2階建 延床面積（2階含む）7,079 m ² のうち展示面積 1,155 m ²
(5) 開館年月日	令和元年9月22日（日）
(6) 開館時間	9時から17時まで（最終入館時刻 16時30分）
(7) 休館日	12月29日から翌年1月3日まで 施設メンテナンスのため必要となる日（概ね年4日程度）
(8) 入館料	無料

5 組織体制（令和3年4月1日現在）



令和3年5月作成

東日本大震災津波伝承館（愛称：いわて^{つなみ}TSUNAMIメモリアル）

所在地：〒029-2204 岩手県陸前高田市気仙町字土手影 180 番地
（高田松原津波復興祈念公園内）

電話：0192-47-4455

FAX：0192-47-4466

URL：<https://iwate-tsunami-memorial.jp>